学者・ロケット工学関係者の名前が多く，半数近くを占めているようにみえる．国別の分布を調べてみると

アメリカ	139 人	20.2%
ソ　連	92	17.3
ドイツ	78	14.7
イギリス	54	10.2
フランス	34	6.4
イタリヤ	11	2.0
日　本	7	1.3

となっていて，アメリカ・ソ連の割り合いの大きさをものがたっている．このうちアメリカの第2次大戦の影響による他国からの亡命者を考え合わせれば，ヨーロッパ諸国，特にドイツの割り合いがふえることは明らかである．

これを月の表側の分布と比べると

アメリカ	23 人	3.7%
ソ　連	11	1.8
ドイツ	139	22.5
イギリス	101	16.4
フランス	99	16.0
イタリヤ	61	9.9
ギリシャ	61	9.9

となる．ここ半世紀ほどの間の国力の変化——ヨーロッパ諸国からアメリカ・ソ連へ——を如実に示しているようで興味深い．

全体的に見るのはこの位にして個別的にみてみると，天文学者については，皆さんがよく御存知のことと省略して，物理学者からはじめるとすれば，20 世紀初頭から，物理学の分野で活躍することの評価の一つは，ノーベル賞である．ノーベル賞のもとである A．ノーベルは今回リスト・アップされているが，ノーベル物理学賞受賞者で亡くなった著名な物理学者でも意外にリスト・アップされていないのは偶然なのであろうか．月の表側に名のついた A．アインシュタイン，裏側で採用された M．キューリー，J．キューリーなどは別にして，名前の上っている受賞者としては，M．ボルン，H．A．ローレンツ，W．パウリ，W．K．レントゲン，E．シュレデインガーなど 20 名で，当然入っていると思っていた，N．ボーア，L．ド・ブロイ，E．フェルミ，M．プランク，ロード・レイリーなど 10 数名がリストからもれている．又，ステファン・ボルツマンの法則の S．フテファンは入っているのに，ボルツマンが入っていないのは死因が自殺の故であろうか．

数学者では，F．ガウスからはじまって 19 世紀はじめの L．オイラー，A．ルジャンドルまでは月の表側にあり，それ以降の数学者がとり上げられている．D．バーコフ，P．ディリクレ，E．ガロア，D．ヒルベルト，S．コワレフスカヤ，T．レヴィチヴィタ，H．ポアンカレ，H．ワイルなどであるが，ここでも，F．リーマン，K．ワイヤストラス，更には整数論の一時期をきずいた日本の高木貞治なども候補にのぼってもおかしくはないと思うのだが．日本のことが出たので 7 名の日本の科学者とは，天文学者の，畑中武夫，平山清次，平山信，木村栄，山本一清，物理学者の，長岡半太郎，仁科芳雄の各氏である．

この他に，ペニシリンの A．フレミングなど医学者，細菌学者，化学者として有名な人々も多くならんでいるが，表側とちがって，思想家，哲学者が少ないことも特徴的である．

変り種なのでは，エジプトのロゼッタ・ストーンで有名なフランスの J．F．シャンポリオン，ミノア・クレタ文明発掘のイギリスの A．I．エバンス，鼻のシラノのシラノ・ド・ベルジュラック，神曲のダンテ，出版屋で空想科学小説家の H．ゲルンスバッハ，精神分析学の S．フロイド，アメリカの宇宙空間法（SPACE LAW）の先駆者 A．G．ハーレイなどがある．

最後に宇宙開発の途上，大きな功績を残しながら，事故その他で亡くなった 6 人の宇宙飛行士 P．I．ベリヤエーフ（ソ連 VOSHOD 2 号），R．B．シャフィー（アメリカ），Y．A．ガガーリン（ソ連・最初に宇宙飛行成功），V．I．グリソン（アメリカ・GEMINI 3 号），V．M．コマロフ（ソ連・VOSHOD 1 号，SOYUZ 1 号），E．H．ホワイト（アメリカ・GEMINI 4 号）の名前が上っているのをつけ加えておこう．

いろいろ，つきぬ話題を提供してくれる月裏面クレーター命名問題ではあるが，このような問題を考えるまでに，月が私達人間の身近なものとなったこととうらはらに，やはり月が「月は，ありあけの，ひんがしのやまぎはにほそくていづるほど」の風情をいつまでも持ちつづけるのを，人々は期待しているのではないだろうか．

学会だより

第 3 回アマチュア天文研究発表会

主　催：諏訪天文同好会

日　時：1970 年 10 月 11 日（日）

場　所：長野県諏訪市　諏訪市市民センター

内容（研究発表）：太陽・月・惑星・流星・変光星・暦・天文器具，その他天文に関する一切の事項

来会希望者は下記事務局まで御連絡下さい．

長野県諏訪市諏訪 1 丁目 6—20　　五味一明